

## 幕末明治の写真師列伝 第九十七回 宮下欽 その十九

一方、会津軍は各地から撤退して小田村付近に集結して、ここで反抗作戦をとる予定であったが、この地での交戦は味方に不利であると考え、10日夜に小田村東方の熊倉村に後退して終結することになった。熊倉村の東方は山地で、会津平野の北端に位置しており、熊倉村は米沢街道の宿駅である。この地を失えば、越後口の征討軍は一気に会津若松城に押し寄せてくる。そこで会津軍指揮の総帥、菅野軍兵衛はこの地の防衛部隊を熊倉北の部落（漆部落）と熊倉北高地の二ヶ所に配置することとした。

これに対して越後口の征討軍は、熊倉と塩川の左右二方面から攻撃することにした。熊倉攻撃隊は、先鋒・松代藩（五番小隊、六番狙撃隊）、本隊・松代藩（三番小隊、八番狙撃隊）、岩国藩（1小隊）、越前藩（1小隊）とし、塩川攻撃隊は、先鋒・松代藩（六番小隊、七番狙撃隊）、本隊・御親兵中隊、安芸藩（1小隊）、長州藩（2小隊）であった。

9月11日朝、この両軍は出発し、進軍を始めた。熊倉攻撃隊は、小田村より上勝（かみすぐり）から中里を経て、熊倉道を進軍して熊倉駅に近接する。越前藩（1小隊）のみは漆村の会津軍砲壘に向かい、漆村の前面に到着した。松代藩五番小隊と三番小隊、遊軍は会津軍砲壘を一挙に占領するべく突撃する。これを松代藩六番狙撃隊と八番狙撃隊が援護射撃した。

これに対して会津軍は小時間、反撃して撃ち合うと、小峰を伝って敗走した。これを追撃するために松代藩兵がこの小峰に登り切ったところで、会津軍は待機していた陣地から一斉に砲撃、銃撃してきた。そのため松代藩兵はたちまち苦戦に陥ってしまった。松代藩兵は会津軍の半数以下であったため、犠牲者も続出して、このまま攻撃することは不可能と判断して、逐次、後退する。

一方、塩川攻撃隊は塩川駅に向かっていったが、熊倉方面の激しい砲撃、銃撃を聞き、塩川行きを中止して、直ちに側面から攻撃して、松代藩兵の後退を援護することとなった。この時、上高田村の会津藩兵数十人が家陰より飛び出してきて、刀と槍による肉弾攻撃を仕掛けてきた。この白兵戦では、松代藩兵の中に一人で数人を倒す剛の者がおり、この勢いもあってようやくこの上高田村の会津藩兵を撃退することができた。会津藩兵は、御親兵中隊、長州藩（2小隊）に対しても屈することなく、追尾して執拗に攻撃を仕掛けてくる。多数の犠牲を出した松代藩部隊は、他の藩兵の援護により、なんとか小田村まで後退、撤退して、ここで追撃してくる会津藩兵に対抗することにした。会津藩兵は小田村まで追撃してきたが、村内の一部に放火したのみで、ようやく熊倉方面へ引き上げていった。

9月12日、松代藩部隊を中心とした征討軍は、小田村より酒井村を経て、三頃村に後退して、ここで宿営することにして、この付近の守衛についた。こうしてこの熊倉方面の激闘は、会津藩の勝利となったのである。

この頃、米沢口の征討軍が米沢より南下して、塩川に向かっていくという情報があり、会津軍指揮の総帥、菅野軍兵衛と一瀬の両主将は熊倉から密かに会津平野の南部へ去ることになった。熊倉方面の戦闘では、松代藩兵の戦死（死傷死も含む）13名、手負11名という多大な犠牲を出し、他に同行した越前藩兵の討

死4名、手負7名、岩国藩兵の討死2名、手負3名、安芸藩兵の手負1名、長州藩兵の討死2名という惨憺たる結果であった。

9月16日、三頃村に駐屯していた松代藩部隊に対して、会津若松城下への進軍が命じられ、松代藩各隊は直ちに出発することになった。先鋒隊は松代藩の六番小隊と七番狙撃隊で、本隊は三番小隊、五番小隊と六番狙撃隊、八番狙撃隊である。これらの各隊が坂下（ばんげ）駅に到着した頃、命令の変更を伝えられて、「高田駅に集結しつつある会津軍を攻撃せよ」ということになった。そこで先鋒隊の2隊は坂下駅に留まり、そこで宿陣して守衛に任務につき、その他の4隊はそこより南下して滝谷村に進軍することにした。滝谷村にはすでに征討軍が到着しており、それに合流する。松代藩の二番小隊、四番小隊、五番狙撃隊の3隊は、大丘候として、銀山を超えて中野山村から赤留（あかる）村に入り探索して、9月16日にはちょうど滝谷村に到着したばかりであった。また、越後方面の諸藩の部隊も、進軍途中の各地の警備の一部の兵を除いて、続々と八十里越を越えて会津に進軍していく。これらの軍とは別に松代藩の一番小隊も滝谷村に到着していたため、この地で松代藩のほぼ全軍が集結することとなった。

9月17日、高田駅の攻撃開始が1日、延期となり、各隊は待機する。

9月18日、滝谷村に集結した征討軍は4隊に分かれて高田駅に向かって進軍を開始した。中野山口より高田へ進軍する第一部隊は、松代藩の一番小隊、二番小隊、五番狙撃隊、松代藩大砲部隊と長州藩兵1小隊、徴兵1小隊。逆瀬川口より南下して高田へ進軍する第二部隊は、松代藩の四番小隊と松代藩大砲部隊、長州藩兵1小隊、小倉藩兵1小隊、松本藩兵1小隊、村松藩兵1小隊、須坂藩兵1小隊。塩野村より赤留村へ進軍する第三部隊は、松代藩の三番小隊と八番狙撃隊。大岩村より高田へ進軍する第四部隊は、松代藩の五番小隊と六番狙撃隊。このように高田攻撃の部隊は、そのほとんどが松代藩兵を中心とする信州部隊であった。

9月16日、他の部隊より先発していた松代藩の三番小隊と八番狙撃隊の2隊は、滝谷村の東方に延々と続く山岳丘陵地帯の道なき道を進み、逆瀬川の西中野山村へ到着する。さらにこれより東方1キロの赤留峠付近まで進み、その地に砲壘を築いて、その場所を守衛、警備することにし、次の命令を待つことにした。

9月18日、赤留峠付近にいた部隊はまず赤留村へ進軍して、ここにいた少数の会津藩兵を撃退して、福泉寺、八木沢方面に前進してゆく。逆瀬川口より南下して高田へ進軍する第二部隊は、塩野へ進軍して、さらにそこから米沢村に入った。ここにも少数の会津藩兵が居たが、第二部隊を見るとすぐに遁走してしまった。そこで松本藩兵1小隊が米沢村に残って、この地を守衛することにし、その他の部隊はさらに雀林村に向かって進軍する。この進軍途中に、敵が山上の砲壘より砲撃してきたが、これに応戦しながら進むと、また敵は敗走していった。第二部隊はさらに寺崎村に進むと再び敵の砲撃を受けるが、これにも応戦すると、また敵は敗走していった。そこでこの敵を追撃して高田駅に向かって進撃を続ける。

（森重和雄）